

SILKYPiX Developer Studio Pro8 を使用した RAW 現像基本調整 (補正編)

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

1. RAW データを開く

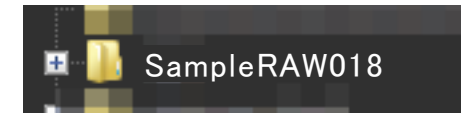


●フォルダーを開く

SILKYPiX はフォルダー単位で RAW データを開くことができます。



①フォルダーツリーアイコンをクリックしフォルダー一覧を表示します。



②フォルダーツリーからダウンロードした RAW データのあったフォルダーを選択すると開きます。

③表示モードを切り替える

サムネイル表示



フォルダーの中のデータを縮小版で一覧表示します。

コンビネーション表示



縮小表示と拡大表示を同時に表示します。

プレビュー表示

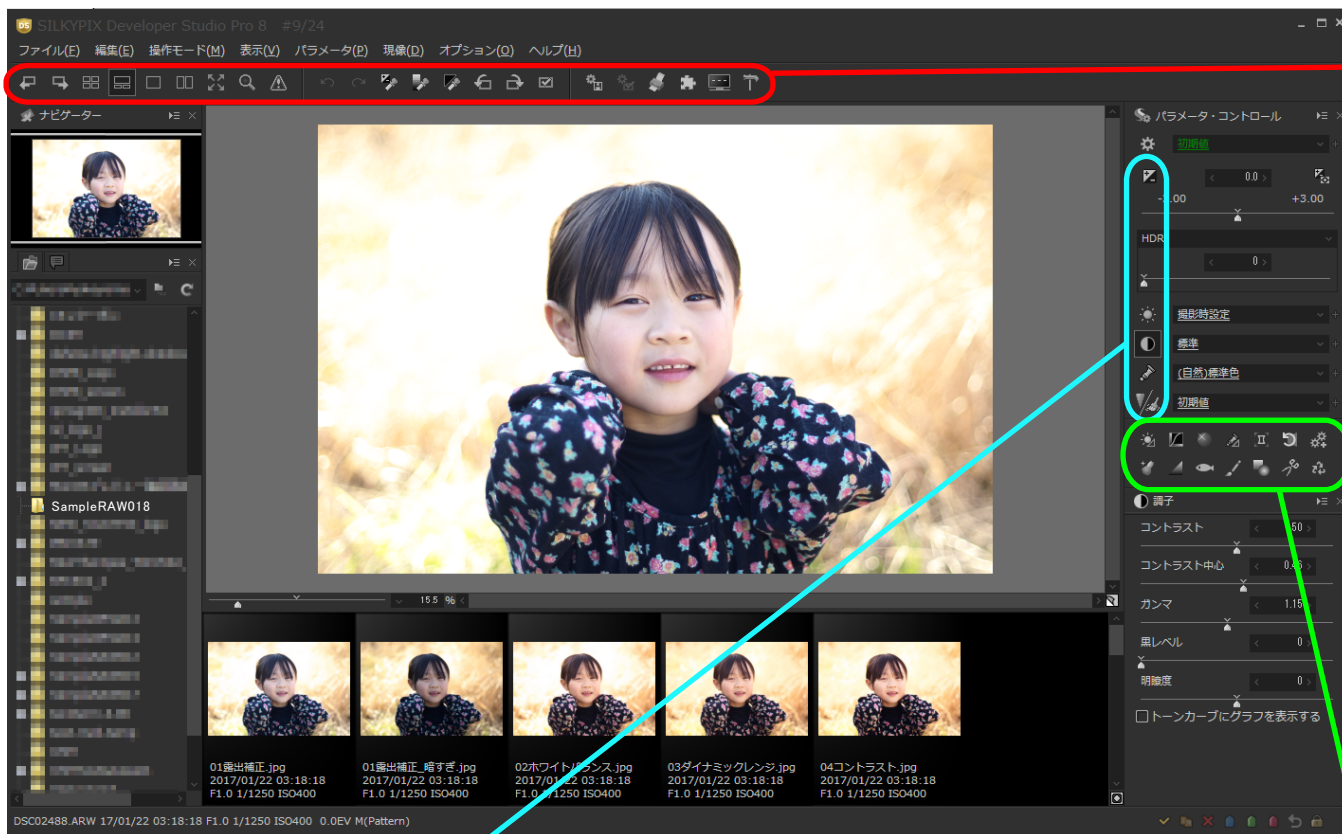


サムネイル表示で選択されたコマを大きく表示します。

SILKYPIX Developer Studio Pro8 を使用した RAW 現像基本調整 (補正編)

サンプル RAW データをダウンロードして実際に体験できます。

2. 画面構成



ツールバーでよく使う機能

- 画面表示切替
- ハイライト、シャドー警告など
- 90 度回転
- JPEG または TIFF に変換 (1コマ現像)
- 印刷

メインコントロール

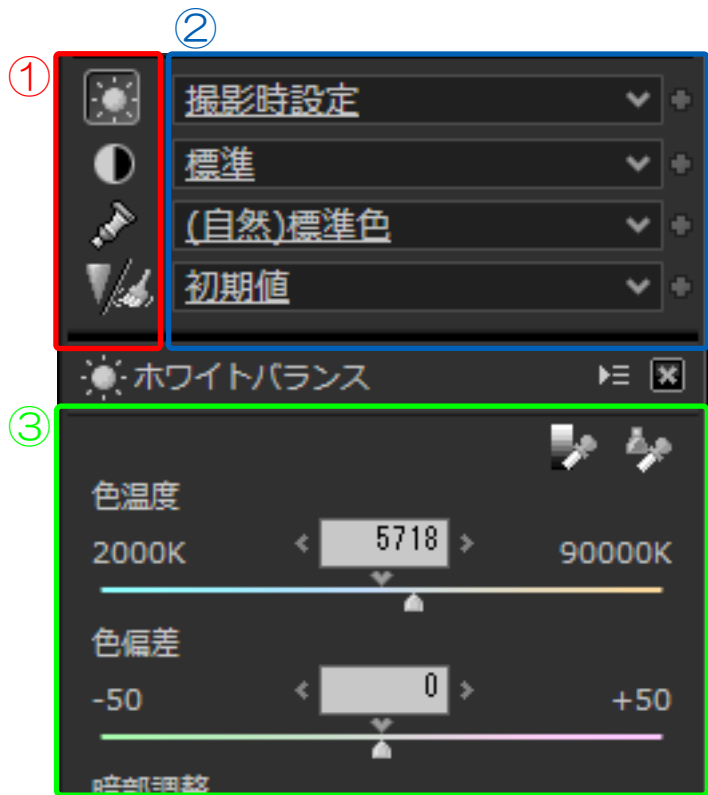
- 露出
明るさの調整
- ホワイトバランス
全体的な色合いの調整
- 調子
コントラストの調整
- カラー
鮮やかさの調整
- シャープ / NR
シャープネスと
ノイズリダクション

サブコントロール

- WB 微調整
色合いの微調整
- トーンカーブ
コントラストの調整
- ハイライトコントローラ
白とびした部分の調整
- ファインカラーコントローラ
特定の色ごとの調整
- レンズ収差補正
歪みや周辺減光の補正
- 回転 / デジタルシフト
傾きや遠近感の補正
- 現像設定
AdobeRGB や sRGB の設定
- 効果
美肌補正とノイズ付加
- モノクロコントローラ
- マリンコントローラ
- ゴミ取り
- 部分補正
- トリミング
- 編集履歴
任意の作業まで戻る。

RAW 現像基本調整（補正編）

3. メインコントロール



①カテゴリ選択アイコン

アイコンを選択すると③のタブページが切り替わります。

②テスト

あらかじめ登録されている設定をメニューから選んで調整を行います。おおまかな調整をここでやり③のスライダーで微調整できます。



③タブページ

①で選択したカテゴリの詳細な調整を行います。主に「スライダー」と呼ばれるコントロールでつまみを左右に動かして調整を行います。

●スライダーの初期値マーク



データを開いた時の値を示すマークとなります。最初の状態がわからなくなった時の目印になります。



RAW 現像基本調整（補正編）

4. 調整前

データを開いたままの状態です。まずここで調整の目標を決めます。



①顔の色が不健康

顔色が青っぽく不健康な肌色になっている。

②背景が白とびしている

人物に露出を合わせているため、背景が明るすぎて白とびしているので階調を出す。

③写真全体がフレア気味

逆光気味で撮影しているため、フレア気味でコントラストが低い。

お子様の写真は元気で健康的な色で仕上げてあげたいものです。
特に肌色は無彩色に近いいため、露出やホワイトバランスがずれているとそのズレが目立ちますので RAW 現像時にしっかり調整し、追い込みましょう。

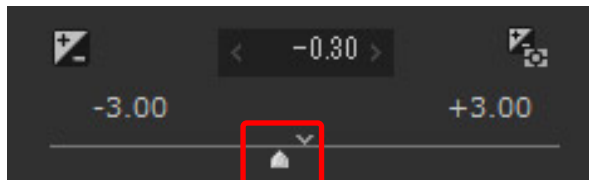
RAW 現像基本調整（補正編）

5. 露出補正

写真全体の明るさを調節します。（もう少し暗く）



露出補正：-0.3EV（-0.3 段）



顔の明るさが明るすぎで調子が弱くなっています。露出補正で顔の立体感が出る程度にマイナス側に補正します。



人物で露出を暗くし過ぎると肌色は濁って見えます。逆に白とび寸前まで明る過ぎるとハイライトが硬い感じになるので、立体感があり適度に明るい露出がおすすめです。

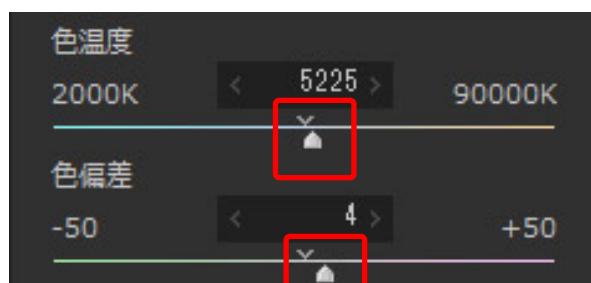
▼露出アンダーの例



RAW 現像基本調整（補正編）

6. ホワイトバランス

青かぶりを緩和し、健康的な肌色へ



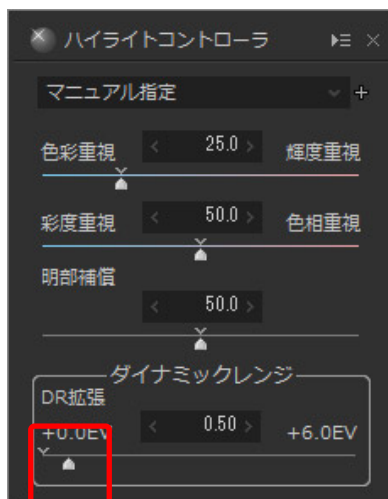
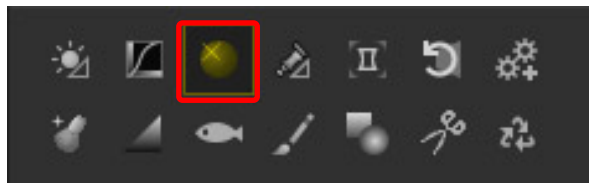
逆光で撮影しているため、顔は日陰になっています。そのため、顔が青っぽく表現されています。肌色に青や緑などの肌色と反対の色（補色）が色かぶりしていると、不健康な顔色に見えることがあります。その場合、肌の青かぶりが緩和するようにホワイトバランスを調整します。

色温度：7300K 色偏差：13

RAW 現像基本調整（補正編）

7. ダイナミックレンジ（白とびの復元）

露出オーバーで白とびしてしまった背景の色を復元する。



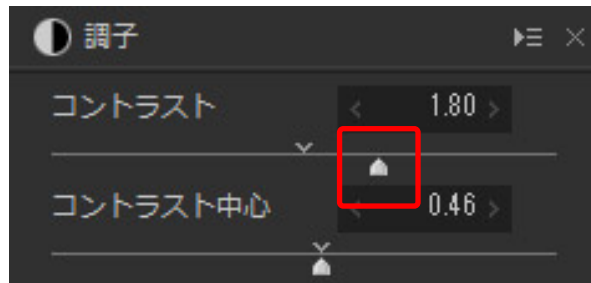
DR 拡張 0.5EV

白とびしている部分（ハイライト）でも RAW データには色や階調のデータが含まれている場合があります。ダイナミックレンジではこのハイライト情報を復元し、白とびを抑えることができます。

RAW 現像基本調整（補正編）

8. コントラスト（明暗差の調整）

フレア気味の軟調な写真にメリハリを付ける。



コントラスト：1.8

ポートレートなど逆光で撮影する場合が多い被写体などでは、レンズフレアの影響などで、撮影時のコントラストが低下する場合があります。その場合にはコントラストを高く設定し、メリハリを付ける事で軟調過ぎて眠い写真をクリアな写真に上げることができます。

但し、ポートレートの場合はコントラストを高く設定し過ぎると、肌の質感が硬くなるので注意が必要です。

RAW 現像基本調整（補正編）

9. 明瞭度（質感の調整）

肌の質感を柔らかく表現



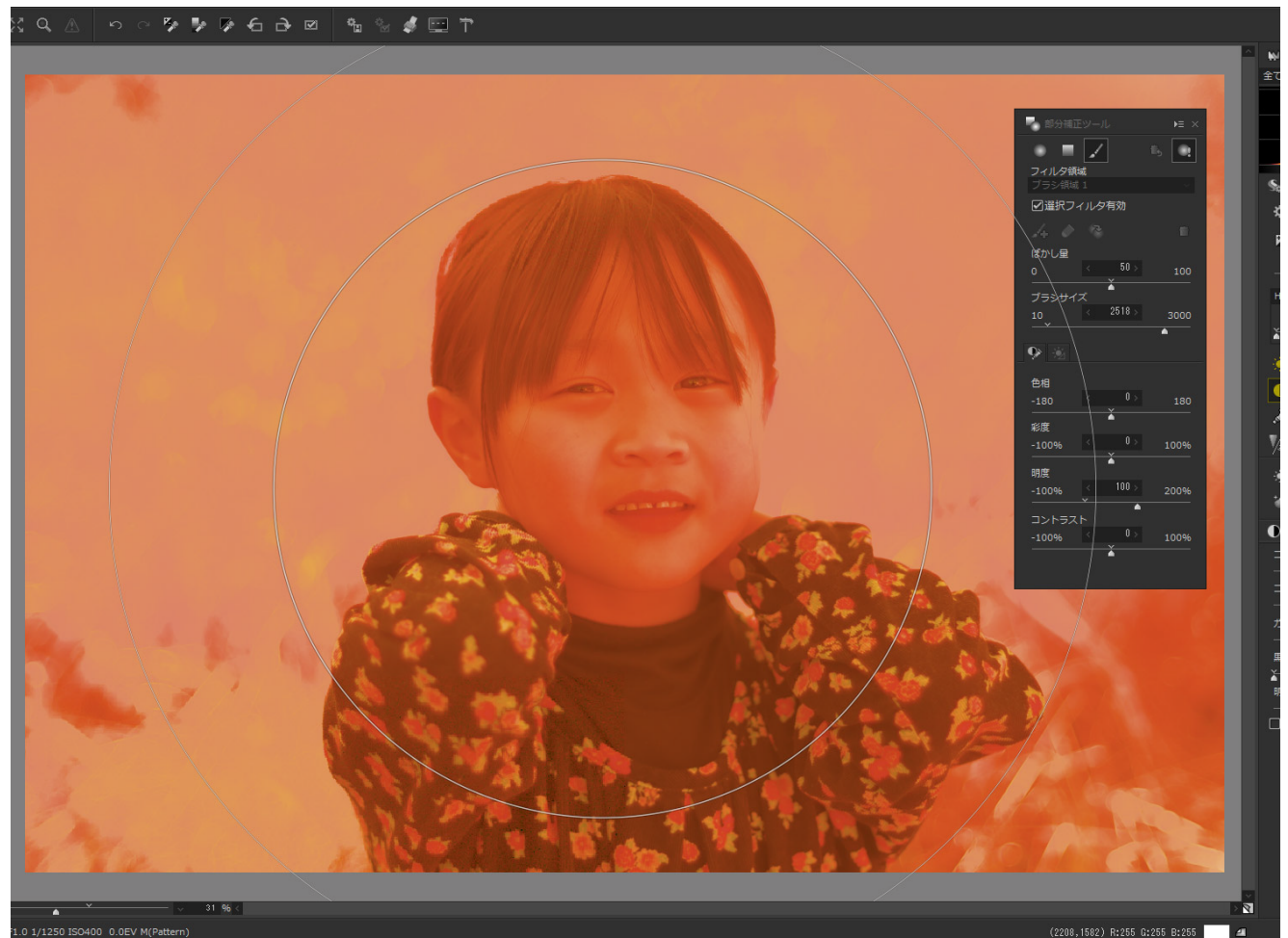
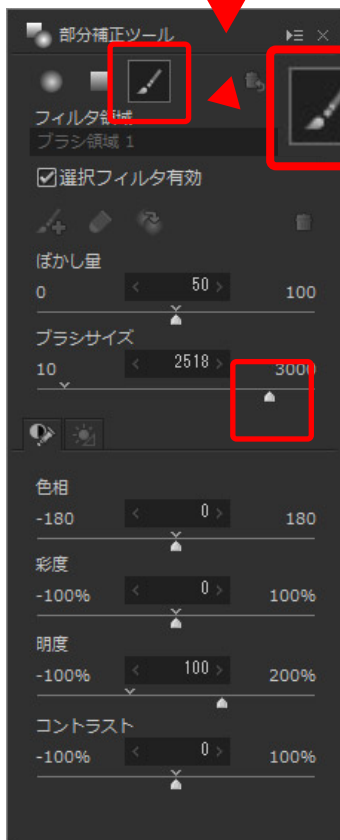
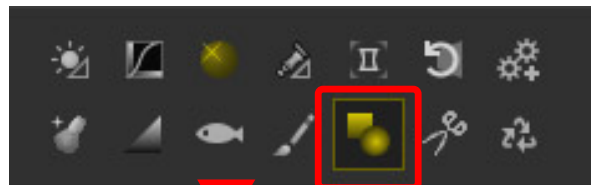
明瞭度は被写体の質感を強めたり、逆に弱めたりすることができます。ポートレートなど人物の場合は弱める事で柔らかい質感の肌を再現することができます。特に高画素なカメラを使用してアップの写真を撮った場合には、毛穴や角質まではっきり写ってしまう場合があるので、その場合は明瞭度を弱めることで肌の質感を調節してください。

RAW 現像基本調整（補正編）

10-1. 写真の周辺を焼きこむ

画面中央に視点が行くように写真の周辺部を暗く落します。

部分補正ツールからブラシ



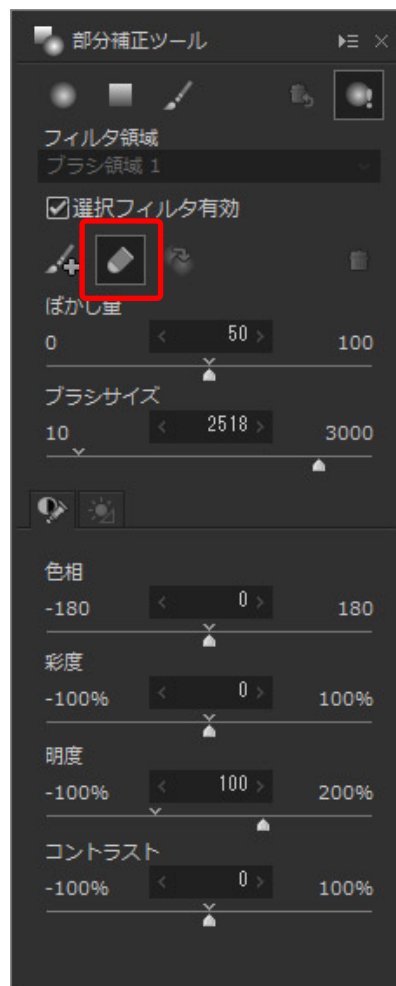
ブラシサイズを大きくして写真全体を塗りつぶします。赤く塗りつぶされた部分に補正効果がかかります。

RAW 現像基本調整（補正編）

10-2. 写真の周辺を焼きこむ

画面中央に視点が行くように写真の周辺部を暗く落します。

部分補正ツールから消しゴム



消しゴムを選択して画面の真ん中の塗りつぶしを消します。ここも大きなブラシサイズを使用すると自然な円が描きやすくなります。

RAW 現像基本調整（補正編）

10-3. 写真の周辺を焼きこむ

画面中央に視点が行くように写真の周辺部を暗く落します。

明度 -26



部分補正のパラメーターから「明度」を下げ周辺を暗く落します。

RAW 現像基本調整（補正編）

11. 調整前／調整後

色（青）かぶりが取れ、健康的な仕上がりになりました。

